令和４年度　第３回　学校運営協議会（議事録）

Ⅰ　日　時　　令和５年２月１４日（火）　１３：３０　～　１５：３０
Ⅱ　場　所　　静岡県立浜松湖東高等学校　大会議室
Ⅲ　出席者（委員、敬称略）
　大堀康彦（本校同窓生）、村松俊司（神久呂協働センター所長）、
　新村貴文（神久呂地区自治会連合会長）、山口権治（浜松市教育総合支援センター職員）
（リモート参加）
　新井立夫（協議会会長、文教大学教授）、二川雅登（本校後援会長）
欠席者
　鈴木恵子（NPO 法人魅惑的倶楽部理事長）、
本校職員
　白井秀幸（校長）、大場誠（副校長）、山崎修司（教頭）、諸井康恵（事務長）
Ⅳ　内　容
１　校長挨拶
本日は、御多忙の中、本会に御参集賜り、感謝申し上げます。オミクロン株感染拡大については、１月に校内感染拡大が危惧されたが、どうにか封じ込め、収束しつつあります。
コロナ禍において、オンライン学習に関係する ICT 化は加速度的に進化しています。今年度１年生は、新学習要領対応として GIGA スクール構想１期生になります。１人１台端末の環境整備については、子どもたちのほうが教員よりも慣れていると感じます。本県は「ＢＹＯＤ」（Bring Your Own Device）として個人の携帯端末を学校に持ち込み、それを校内ネットワークに繋ぎ授業で活用していくことになっており、８月には WiFi 等を含め、環境が整備され、今年度１年生には１人１台の Chromebook を貸与しています。貸与は原則、今年度までとし、次年度１，２年生はスマートフォン以外のデバイスを購入等により用意してもらうことになります。コロナ感染拡大に限らず、悪天候によるリスク回避のためにも、在宅によるオンライン授業を推進していきます。
さて、３月には各高校が「三つの方針（いわゆるスクールポリシー）」を策定し、公表することになっています。本日は委員の皆様に、外部評価をいただくとともに、３つの方針「グラデュエーション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」について、御意見を賜り、御承認いただきたく、よろしくお願いします。
スクールポリシーを基に、次年度の学校経営計画を作成し、次回の協議会で御意見をいただくことになります。
教育委員会から任命された委員の皆さまから、忌憚のない意見をいただければ幸いです。
２　議事（進行：会長）
(1) 今年度の教育活動
〇教務（副校長から）
・１, ２学期の欠席率 1.8%、感染症による出席停止 2.8%だった。全体としては、出席状況は良好である。
・全校臨時休業や学年閉鎖、学級閉鎖等を行いながら、感染拡大防止に努めてきたが、全体では 36%の生徒が既感染となっている。
・転学者１年７人、２年４人、３年４人。理由は様々。
・自宅での学習保障と自学自習のため「スタディサプリ」に加え、「Google Classroom」を活用している。

○生徒（副校長から）
- ２学期から女子のスラックスを導入した。
- 体育祭、球技大会において、生徒会からの新たな提案を取り入れて実施。コロナ禍でも生徒会は積極的に活動できた。
- 生徒の生活態度は落ち着いている。生徒指導３件のみ。

○進路（教頭から）
- 現３年生は入学時から臨時休業だったが、進路については例年と遜色ない。短大を含む大学進学７割弱、専門学校３割強。就職若干名。
- 総合型選抜、学校推薦型選抜への出願が増えている。探究学習での取り組みを総合型選抜に活用している生徒がいる。小論文や面接指導を職員は個別に丁寧な対応をしているが、負担が大きい。
- 共通テスト対策が私大対策にならなくなった。新教科「情報」とともに、指導計画、指導方法の検討が必要。

○学校運営・探究活動等（校長から）
- 令和２年度から「探究プロジェクト」を行い、「主体的と自主的は違う」との確信を得た。「主体的＝自分と関わる」ことであり、「自主的＝自分でできる」とは違う。
- 授業で自分らしさを発揮できない生徒には、発揮できる場を用意する必要があり、それが「探究プロジェクト」である。
- 課題解決型学習（Project Based Learning）により探究力を育成していく。本校の特色ある取組と位置付けている。
- おもな活動は「コトバショ」と「コーヒーフェアトレード」の２つ。
- 静岡県ＳＤＧｓスクールアワード2022 審査で「コトバショ」の活動が「県教育長賞」に選ばれた。「企業賞(各企業ごとに選ぶ)」において、「損害保険ジャパン株式会社賞」「日本生命保険相互会社賞」からも「コトバショ」の活動が選ばれた。「フェアトレード」の活動も「奨励賞」に選ばれた。＜写真投影＞
- 三島北高校において行われたグローバル課題研究ポスターセッションに参加し、「コトバショ」「フェアトレード」について発表した。＜動画視聴＞
- 総合的な探究の時間では、１年生で行っているソーシャルチェンジ「困っている人を助けよう」について全国からの代表者が成果を発表し合う全国大会「クエストカップ」に本校から２チームが選ばれた。
- ２年生の「コーポレートアクセス」では企業からの課題に対してプレゼンテーションを行う。「ダイワハウス」と「フォレストアドベンチャー」の２企業において、本校生徒の発表がそれぞれ選ばれた。
- 全生徒ではないが、３年間の活動により探究力が育成されてきたと実感している。
- 総合型選抜において、活動内容を活用して合格した生徒がいる。
- 徳之島のコーヒー農園を訪問した生徒たちが、来年度クラウドファンディングを用いて台風の自然災害からコーヒー園を守るという新たな課題解決に向けて動きだした。

（委員）転学 14 人は多いのか、少ないのか。
（校長）多いと思っている。学校生活の中で認められる場所づくりが必要。
（委員）・困っている人を助けるという活動は素晴らしい。継続して取り組んでほしい。
・アクティブラーニングや話し合いに参加できない子どもたちの居場所づくりも大事。
・多様性を認めるとは、発言しない子も認めるということ。
・部活動など閉鎖的な集団の中での雰囲気が気になる。助けを求めることが難しい。

相談できる体制が必要。
・転学者の追跡調査をやったほうがいいのではないか。
・教科「情報」への対応はどうなっているのか。

（校長）教科「情報」については、共通テストの出題傾向等を含めて、情報収集している段階。対応方針等は未定。

（委員）・神久呂協働センターで「コトバショ」を開催している。関わっている生徒たちは、元気に活躍している。湖東高校はいい学校だと思う。
・どの子にも心のこもった声掛けをお願いする。
・探究活動に取り組んでいる生徒は、考える力、発信する力がついていると思う、それを進路指導にどう生かすのか。一方、進路指導が目的となってはいけない。
・探究活動を繰り返すことが、社会での活動につながる。

(2) 学校評価アンケート集計結果報告（教頭から）
・昨年度に比して、評価が下がった項目が多い。長引くコロナ禍での活動の中で、自粛疲れがあり、コロナ前の活動を求めていることが原因として考えられる。
・部活動に対する評価が下がっている。中学校に比べると、練習時間、内容が厳しく、結果として意欲的に取り組めていないのかもしれない。
・厳しい評価結果や自由記述の内容を全職員で共有し、謙虚に受け止め、改善に取り組んでいく。

（委員）保護者アンケートの「悩みに答えている」の１年生の評価が低い。

（教頭）生徒アンケートでは 1 年生が最も高い。保護者と直接話をする機会の不足が原因と思われる。電話連絡等は、丁寧に行っている。

（副校長）コロナ禍で学級懇談等ができていない。1 年は、担任が保護者と顔を合わせる機会が非常に少なかった。

(3) 学校関係者評価（副校長から）
・成果目標とアンケート等の結果数値から自己評価した。
・「探究的な学び」では、教科において「情報発信力」「自己表現」の数値が低いが、総合的な探究の時間の中で、能力が身に付いてきているので、「B」とした。
・「読書活動」について、実際は多くの生徒が利用しているが、アンケート結果には反映されていない。しかし、数値として出ているため「C」とした。
・委員の先生方には、学校関係者評価の記入をお願いする。

(4) 意見交換（委員から）
・「進路指導」に関して、すばらしく、誇っていい状況。
・「探究的な学び」については、評価基準が難しい。
・図書館利用について、コロナ禍の中で大学等においても、利用率は下がっている。インターネットによる閲覧や読書ができるので、利用率が低くても仕方がない。
・評価については、学校側の自己評価のとおりでよい。

(5) スクールポリシーについて（校長から）
・高校教育課からスクールミッションの公表について令和４年６月 30 日までに各高等学校ホームページへの掲載する指示があり、下記の内容を掲載した。

『地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組む浜松市西部の普通科高校として、生徒自身が実際に様々な社会問題と向き合うことで、自分がどのような形で実社会と関わることができるかを体験を通して学んでいくことができる教育を通して、論理力や答えの出ない事

態に耐え得る力を身に付け、「自分から、自分らしく、自分の言葉で語れる生徒」の育成を目指す。』

・スクールポリシーの策定及び公表については、令和５年２月 24 日までに①グラデュエーション・ポリシー、②カリキュラム・ポリシー、③アドミッション・ポリシーを高校教育課に提出し、令和５年３月 31 日までに各高等学校ホームページへの掲載することになっている。

・本校の３つのポリシーについて、下記のとおり提案する。

(1) グラデュエーション・ポリシー

　答えの出ない事態に耐え得る力を身に付け、相手の主張の道筋を読み解き、自分の考えを整理して自分の言葉として伝えることができる。

(2) カリキュラム・ポリシー

　探究を軸に自分で見つけたことを相手に説明し、自分で分かったつもりのことが分かってもらえないことを、対話を繰り返す中で自分から自分の考えを見直して自分の言葉にしていく。そのために、教科横断的な視点で以下６つの資質・能力を育成する。

①「論理的思考力」(相手の主張の道筋を読み解き、自分の考えを整理して伝える力)

②「関連づける思考力」(唯一の正解が存在しないものに、最適解や納得解を見出す力)

③「分析・批判的思考力」(対立やジレンマに折り合いをつける力)

④「ネガティブ・ケイパビリティ」(答えの出ない事態に耐え得る力 / やり抜く力(グリット(GRIT) / 立ち直りを促進する力(レジリエンス(RESILIENCE)))

⑤「コミュニケーション能力」(他者と良好な人間関係をつくる力 / 他者との対話の中で、自分の考えを再考し、 自己の理解を深める力)

⑥「発信力」(自分の考えを要約して相手の記憶に残るように話す力)

(3) アドミッション・ポリシー

　答えのない問いに挑み、仲間と共にやり遂げる体験を通して、自ら学び、成長していこうとする。

・令和５年度の学校経営計画書は、スクールミッション、スクールポリシーを基に作成するものとし、様式は従来のものから変更することになっている。これについては、３月実施予定の本運営協議会で承認をいただく予定である。

・カリキュラム・ポリシーは、本校が生徒に求める６つの資質・能力を具体的に示すこととした。長くなるが提示の必要があると考えた。

・３つのポリシーは、これまでにグランドデザイン、学校経営計画書に示してきたものであり、特別新しく創ったものではなく、整合性は取れていると考える。

（委員から）

・これまでの協議会で議論されてきたことがすべて入っている。

・全会一致で承認する。

3　今年度の日程

第４回を３月７日（火）15:30 にお願いする。内容は令和５年度学校経営計画書の協議。